

博士課程後期学生への 経済的支援拡充を踏まえた 工学研究院の取り組み

工学研究院長 梅澤 修



去る 2023 年度末は、博士課程後期学生への経済的支援拡充の施策が急速に進展しました。2024 年度から、大学では、ROSE（Research Opportunities for Students Excellence）プログラムの実施、そして、次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）および国家戦略分野の若手研究者及び博士後期課程学生の育成事業（BOOST）次世代 AI 人材育成プログラム（博士後期課程学生支援）への採択に伴い、理工学府を含む各学府に所属する多くの博士課程後期学生への支援拡充が見込まれ、今後の大学院生の進学増加も期待されます。理工学府特別研究員／特待生制度による支援も継続しており、これら選考時期については、SPRING および BOOST、日本学術振興会特別研究員への申請へと、一連の流れがスムーズに運べるよう調整を図りつつ進めております。また、大学では、ティーチング・アシスタント（TA）およびリサーチ・アシスタント（RA）制度における時間給単価の見直しとともに、新たにプロジェクト・リサーチ・アシスタント制度が導入され、より時間給単価の引き上げがなされました。工学研究院では、適用単価の設定についてガイドラインを示し、実施を始めたところです。

学長戦略経費（ミッション実現戦略分）に基づく工学研究院の取り組みでは、これまで提案実施してきた「卓越教育研究拠点形成・拡大のための修士学生の論文発表等の推進」が全学組織による取り組みに発展して継続実施となり、新たに「国際共同研究及びハイインパクトな研究成果発信の推進」へと展開します。論文発表のいわゆる“量”から“質”への転換に向けた研究連携・国際化へステップアップを図るべく、今年度は国際共著論文支援を実施します。これは、論文被引用数が少ない要因分析の結果、国際共著論文の比率が他大学と比較して低いことが一因であることを踏まえています。もちろん、国際共著論文のみならず、様々な側面から研究連携・国際化への支援が必要なことは言うまでもないのですが、これを契機に、それぞれの分野や視点から国際的認知度の向上や研究活動の国際化により目を向けていただければと存じます。

また、連携プログラム推進では、国際交流支援を継続しております。上記の ROSE プログラム学生には、国際学術論文採択や海外渡航経費への支援が含まれています。指導される大学院学生とともに、皆様の国際的な発展を期待しております。さらに、女子学生の支援や博士課程後期進学者の増加を目指し、キャリアパスへの不安解消を目的とした先輩とのインタビューや研究機関訪問などを継続実施いたします。

本年も「名教自然」の理念のもと培われた伝統を大切に、工学研究院・理工学府の教職員一同、努めてまいりますので、引き続きのご支援・協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2023-2024
Highlights

工学研究院／工学府／理工学府／理工学部